

課題名：共生社会を実現する認知症研究プラットフォームの構築

代表機関/代表者：東京大学/新美 芳樹
研究期間：令和6年度～令和10年度

研究開発目的

アルツハイマー病（AD）に対し治療薬や検査法の開発が必要と言われています。高齢化が進む中、AD以外の認知症性疾患に対し、層別化する検査法や治療法の研究開発も必要です。認知症研究の効率化、開発された治療法等の速やかな社会実装に向け、認知症疾患のコホートやレジストリ全体を共通するような仕組み（プラットフォーム）を構築します。

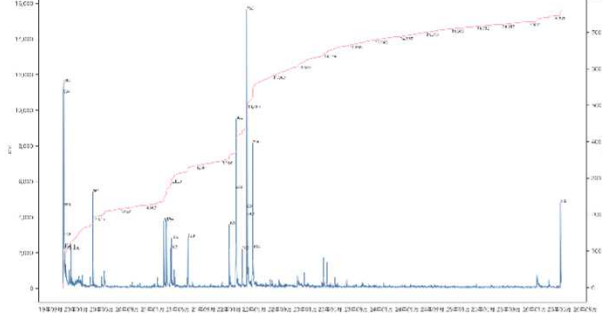
取り組み

- 認知症の人やリスクを有する人、家族・介護者等（以下「本人等」）によるPPI（Patient and Public Involvement）を推進します。
- 医薬品・機器等の実用化を視野に、画期的な診断法や治療・予防法の開発をめざす研究等に資するよう、マルチステークホルダーが協力して当たる産官学の連携体制（Public Private Partnerships: PPP）の確立を目指します。
- トライアルレディーコホート推進・拡張のため、遠隔実施などを実装していきます。

成果

- 累積15,200名以上のウェブ参加登録、865例の詳細評価を実施
- 認知症とともにある人や家族等とPPIの取り組みを推進
- 共同研究を進めPPPを推進

ウェブ参加者登録15000名を達成



詳細評価であるオンサイト研究を865名で実施



治験参加を希望する方の参加を支援 ウェブ登録～採血スクリーニングが行えるよう体制構築

今後の展開

- トライアルレディーコホートの機能拡大と拡張・展開
- 蓄積データ解析により新規バイオマーカー等開発
- PPI、PPPの更なる推進